春のアブラゼミ　第１３日目　that の用法③

組（　　）番号（　　）　氏名（　　）

It has so often been said that the English (though not the Scots, the Welsh, or the Irish) are an inartistic and unimaginative people, that the English have themselves come to believe the accusation. They are told that they have no vision, and that they are more concerned about their pockets than about their minds and souls. Since they are modest and a docile people, full of self-distrust and slow to give offense, it seldom occurs to them to point out that the English have had not only the greatest poet of all time but also more great poets than all other countries put together.

和訳

参考

・the Scots ＝「スコットランド人」、the Welsh ＝「ウェールズ人」、the Irish ＝「アイルランド人」
・artistic ＝「芸術が分かる、芸術性にあふれた、美的感覚のある」
・imaginative ＝「想像力のある」
・accusation ＝「非難」← accuse
・vision ＝「想像力、先見の明」
・A is concerned about B.＝「A さんは B のことを心配している、懸念している」
・docile ＝「おとなしい、素直な」
・self-distrust ＝「自己不信」
・give offense/offense to ～＝「～を怒らせる」
・occur to 人 to ～/that ～＝「～するという考えが人に思い浮かぶ」
・of all time ＝「あらゆる時代を通じて、古今を通して」＝「史上」
・put together ＝「ひとまとめにする、あわせる」

英文の読み方

１．前置詞＋名詞は他の部分から切り分けて形容詞か副詞かを考える。
２．and、but、or が出てきたら直後に注目し、直前に同じ形を探す。
３．a、an、the が出てきたら名詞を探す。
４．助動詞の後ろには動詞がある。be ～ to や～ to を助動詞考えれば簡単に動詞が見つかる。
５．文中副詞の後ろには(一般)動詞がある。文中副詞のほとんどが「－ ly」の形をしている。
６．文頭に前置詞＋名詞があり、その直後に動詞があれば、完全逆転型の倒置。
７．文頭に否定語があり、直後が疑問文の並び方なら、疑問文型の倒置。
８．省略は「同形反復」に注目すればすぐ分かる。
９．A of B が出てきたら「B が A する」「B を A する」「B の持つ A」「B という A」「A の B」を特定する。
１０．that、-ing、to-が出てきたら「名詞」「形容詞」「副詞」を特定する。, -ing のコンマ(,)の省略に注意。

注意点

またまた that の勉強です。やっぱり同じまとめを載せておきます。

■僕らは彼がそこへ行ったことを信じている。（従属接続詞の that）［ことシリーズ］
We believe that he went there.
■僕らは彼がそこへ行ったという事実を信じている。（同格のthat）
We believe the fact that he went there.
■僕には今日読む本が一冊もない。（関係代名詞のthat）
I have no book that I can read today.
■僕はあなたに会えて嬉しい。（理由・原因のthat）［なぜ？どうして？のthat］
I am happy that I can see you.
■僕はとても疲れていてこれ以上歩けない。（結果・程度のthat）
I am so tired that I can't walk any more.
■僕が愛しているのは君だ。（強調構文のthat）
It is you that I love.
■彼がそこへ行くべきだという点で、僕らは合意した。（熟語のthat）
We agree in that he should go there.

＜見取り図＞

・It has so often been said that the English (though not the Scots, the Welsh, or the Irish) are an inartistic and unimaginative people, that the English have themselves come to believe the accusation.

It	has so often been	said
A	＝	Bされる

that the English are an inartistic and unimaginative people

the English	are	an { inartistic / and / unimaginative } people
A	＝	B

that	the English	(have come to) believe	the accusation
	主	信じるようになった	

themselves

＊ inartistic や unimaginative の訳語を artistic、imaginative から推測して、「芸術に疎い」「想像力が貧困な」と訳出する。
＊ come to ～で「～するようになる」。その現在完了形が have come to ～。日本語には完了形がないので、「～するようになった」と過去形で訳出すればよい。
＊ oneself には「①自分自身は、を、に」と「②自分で、他人の助けを借りずに」の２つの用法がある。ここでは②の意味で使われていて、by themselves とほぼ同じ意味。挿入句は have と過去分詞の間に割り込むことを思い出すこと。
★ so often been said の so とセットの that が「結果・程度の that」。
★ It has often been said that ～の It が形式主語で、that が真主語。

【全訳例】イギリス人（スコットランド人やウェールズ人、アイルランド人はそうではないが）は芸術性に疎くて想像力が貧困な民族であると言われることがあまりにも多かったので、イギリス人自身もその非難が正しいと信じるようになってきた。

・They are told that they have no vision, and that they are more concerned about their pockets than about their minds and souls.

They	are told	{ that they have no vision / and / that they are more concerned about their pockets }
主	言われてる	何を

than about their { minds / and / souls }

they	have	no vision
主	持ってる	何を

they	are more concerned about	their pockets
主	心配している	何を

than about their minds and souls

＊ they は前文の主語にもなっている the English。
＊ vision には「先見の明」「洞察力」「想像力」の意味がある。no vision で「想像力がない」。
＊ A is concerned about B で「ＡさんはＢのことを心配している」。Ａは人じゃないといけない。
★ than も接続詞で左右対称構造を要求するから、直後に注目して about、直前にも about を探す。
★ They are told（イギリス人は言われている）に続く「何を」が２つあって、that 文 and that 文の構造になっている。そして、that 直後の文は完全文だから、「ことシリーズの that」だと分かる。

【全訳例】彼らは想像力がなく、精神や魂のことよりも財布の心配をすることが多いと言われている。

・Since they are modest and a docile people, full of self-distrust and slow to give offense, it seldom occurs to them to point out that the English have had not only the greatest poet of all time but also more great poets than all other countries put together.

Since	they	are	modest and a docile people
	A	＝	B

[who are] full of self-distrust / and / slow to give offense

it	seldom occurs	to them
主	思いつかない	

to point out that the English have had not only the greatest poet of all time ～

＜文＞

the English	have had	[not only] the greatest poet [but also] more great poets	of all time than all other countries
主	持っていた	何を	

put together

＊ modest は「謙虚な」
＊ docile で「おとなしい、素直な」
＊ self-distrust で「自己不信」。
＊人 is slow to give offense の to は「何するのが？」の to。ルール１６で使った例文を挙げておきます。
■この本は難しい→（なにするのが？）→１日で読むのが
This book is difficult to read in a day.

＊ give offense/offense to 人で「人を怒らせる」。ここでは to 人は省略されている。
＊ It occurs to 人 to ～で「～という考えが人の頭に浮かぶ」。It は形式主語で to 以下が真主語。
＊ of all time で「あらゆる時代を通じて、古今を通して」＝「史上」
＊ put together は「ひとまとめにする、あわせる」。put は過去、過去分詞が同形なので注意が必要。ここでは all other countries を飾る過去分詞であることに注意。ルール１６では、次の例文と同じ用法。
■英語で書かれた本
a book written in English
▼ひとまとめにされた他のすべての国々
all other countries put together

＊ the greatest poet of all time（歴史上もっとも偉大な詩人）とはシェークスピアのこと。
＊ more great poets は「より偉大な詩人」じゃなくて「もっと多くの偉大な詩人」。many great poets の比較級であることに注意。more が出てくると「より～」と訳してしまう受験生が多い。

【全訳例】彼らは謙虚で、自分のことをあまり信用しておらず、人をなかなか怒らせない国民なので、イギリスは歴史上最も偉大な詩人（シェークスピア）を輩出しているだけではなく、他の国をすべて合わせたよりももっと多くの偉大な詩人を輩出しているのだ、ということを口にしようなどとは滅多に思いつくことはないのである。

＜解法＞
この英文のポイントは、最初の文に「形式主語の真主語の that（ことシリーズ）」と「so ～ that（程度・結果）」の２つの that が混在しているのに気がつくかどうかです。形式主語の真主語の方は見つけやすいのですが、so や such とセットになる「程度・結果の that」は見落としてしまう子が多いのではないでしょうかね？！

■～ということが今まで頻繁に語られている。
It has so often been said that ～

最初の that は形式主語 It の真主語で、長い主語（that 文）が後ろに回っていることには、すぐに気がついたと思います。形式主語の文が一通り終わって、コンマの後ろに出てくるのがこの that です。

▼イギリス人自身がその非難を信じるようになったこと？！
～ people, that the English have themselves come to believe the accusation

コンマ＋関係代名詞だから「非制限用法の関係代名詞」で、and、but、because を補って、先行詞から後半を訳し始めるんだ！と思った子はハズレです。だって、that は非制限用法には使えないからです。つまり、「コンマ＋ that」は関係代名詞にはならないのですよ。

次に that を「ことシリーズ」で訳出しても意味が通じません。そこで、もう一度最初の英文を見直してみると so があることに気がつきます。そう、この that は「そのくらい～だ」とはどの程度なのかを説明する「程度・結果の that」なのですよ！真主語を削ってしまうと分かりやすいでしょう。

■そのことは、イギリス人自信がその非難を信じてしまうようになるくらい、そのくらい頻繁に語られてきた。

It	has so often been	said
A	＝	Bされる

that	the English	(have come to) believe	the accusation
	主	信じるようになった	

themselves

もちろんこの that は中学以来お馴染みの「とても～なので（その結果）・・・」でも訳出できます。
■そのことはとても頻繁に語られてきたので、（その結果）イギリス人はその批判を信じてしまうようになった。

第２文にも tha が２つあります。でも、これは簡単ですよね。だって接続詞 and がつくるシンメトリックな構造さえ見抜ければ「ことシリーズ」だと分かるからです。つまり、「and、but、or が出てきたら、直後に注目して直前に々形を探す」を毎回やっていたら良いわけです。あ、ただし、「and、but、or の直前にコンマがあれば、文がそこで大きく区切れる」というルールも忘れてはいけませんよ！ま、１００％のルールじゃないけどね。

They	are told	that they have no vision and that they are more concerned about their pockets
主	言われてる	何を

than about their { minds / and / souls

and の直後には that がって、直前にも that が出てくるので、and は２つの that 文を結んでいることが分かります。そして、They are told ～に続いているのですから、イギリス人が世間で言われていることが２つあるんだと考えながら読めば良いわけです。だからこの that は「ことシリーズの that」です。あ、than もシンメトリックな構造を好みます。ここでも than の直後にあるのは about 名詞１だから、直前にも同じ形を探すとやっぱり about 名詞２が出てくるよね。だから、イギリス人が心配していることは about 名詞１よりもむしろ about 名詞２だと思って読めば良いのです。